

## 高村京子県議 瀬良教育長の再任を求め討論

文教委員会において瀬良和征現教育長の再任議案が否決されましたが、日本共産党県議団は、瀬良和征現教育長の再任議案に賛成の立場です。

瀬良教育長は、教育基本法を長野県教育の現状に照らして、まず深刻な教育現場に出向き、一人ひとりの子どもたちの状況や当事者の声を受け止めることに力を入れてきました。

30人学級の実現をはじめとする「ゆきとどいた教育の実現を求める県民署名」は15年間に約1,100万筆以上が寄せられ、ようやく田中知事のもとで実施され、今年度は小学校1年生から3年生まで県の責任で実施され、4年生以上6年生については市町村との共同事業として行われることになりました。そしてまた来年度は県が4年生まで全額負担し、さらに30人規模学級が拡大され、長年の県民要望が大きく前進しています。

また、今までほとんど光が当てられなかった養護学校についても、ようやく子どもたちや保護者・教職員の声を受け止められ、スクールバスの補充や設備改善が進むようになり、稲荷山養護学校は知的障害児も通える併設学校としていま改築が進んでいます。また高等部の訪問教育も年齢制限撤廃など改善が進んでいます。

共産党県議団は、ADHDやLDなどの発達障害児を抱える学級に教員の特別加配を求めてきましたが、瀬良教育長が自らそういった学級を見学し体験して、長野県としてADHDやLDなどの生徒を抱える学校に教員の特別加配を行い、今発達障害児へのケアが広がっています。

長野県は、不登校児童が全国一番多い県となっています。不登校となった児童とご家族の苦しみはとても一言では言えないし、なかなか理解が得られない状況に長い間置かれてきました。

瀬良教育長は、不登校問題で様々な活動を行っている県内の関係者の皆さんを訪れ、当事者の皆さんとともに県教育委員会として不登校児童への支援活動をどのようにすべきか話し合いを重ね、「子どもサポートプラン」を作成し、地域ネットワークを立ち上げました。

15日の文教委員会で瀬良氏の人事が否決されたことを悲しみ、納得いかない個人や団体の皆さんが行動を起こされて、17日には、20の方が記者会見を行い、それぞれの思いを発言されました。18日土曜日夕方1時間、19日日曜日3時間、長野駅前で瀬良教育長の再選を求める署名活動を行ない、2日間の駅前では650筆、それ以外にも県内各地で自主的な署名活動が取り組まれ、現在4,142筆の署名が寄せられ、県議会議長あてに提出され、県議会各派にも要請されました。

今、来年度の教育予算編成の大事な時期にあります。また、いじめ・不登校問題、学力問題をはじめ高校改革、高校入試制度問題など教育課題が山積しています。

大切なこの時期に、この人事案件を本県議会が否決することになれば、教育行政執行部のトップ不在の事態となり、混乱を招くような事態は、決して県民の理解は得られず、人権・民主主義の問題としても禍根を残すことになるのではないのでしょうか。

良識ある議会議員各位におかれましては、本人事案件のご賛同を心から訴え、賛成討論とするものです。

本会議で採決の結果 賛成18、反対39で教育委員の人事案件は否決されました。